長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2022 DECEMBER VOL.408

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



メリークリスマス！！ 八橋サンタ、トナカイと３ショット📷　さて、トナカイさんは誰でしょう？？？
（答えは7P下）

医長紹介～私の専門分野～

血液内科医長　小林 裕児

TOPICS

- 令和4年度 長崎県管理者育成研修を開催しました
- 研修医ワークショップ
- 第10回長崎県看護管理者育成研修
- 2022年度学術奨励賞入賞者

市民公開講座のお知らせ
院内さるく 企画課
リハビリテーションだより Vol.5
看護部だより Vol.47
SENSAIで2022年を振り返る

長與 專齋（1838年～1902年）

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

血液内科医長　小林 裕児



安全第一

2022年4月に血液内科医長に就任しました小林裕児です。今回はALアミロイドーシスという疾患をご紹介いたします。

アミロイドーシスは、異常な線維性タンパク質であるアミロイドが全身の臓器に沈着し、機能障害を引き起こす疾患です。ALアミロイドーシスでは異常な免疫グロブリンがアミロイドの原因となります。アミロイドの沈着によって、肝腫大、手根管症候群、消化器症状、巨舌、神経障害など全身に様々な症状を来しますが、心不全と腎不全が生命予後にかかわる2大症候です。

診断には生検を行い、組織へのアミロイドの沈着を証明する必要があります。従来は有効な治療は限られていましたが、近年、プロテアソーム阻害薬や抗体薬など、新規の薬剤が臨床応用されています。実際に、早期にこれらの治療法を行うことで、著明な治療効果を得た患者さんを経験するようになっています。一方で、臓器障害が進行してしまうと、治療効果が得られる前に全身状態が悪化したり、治療の実施自体が困難となるため、依然として予後不良な疾患です。従って早期診断が重要ですが、本疾患には特異的な症状や検査所見がないため、原因不明の臓器障害を認めた際には、アミロイドーシスの可能性を考え積極的に生検を行う必要があります。

近年、血液疾患に対して次々に新しい治療が開発されています。私たちも、最新・最適な治療を患者さんに提供できるように、日々勉強しながら仕事をしております。これからも患者さん一人一人に適切な医療を届けられるよう頑張っていきたいと思います。





娘（9歳、3歳）が書いた私の似顔絵



ピアノが趣味です。
たまに娘と弾いてます

TOPICS

第10回長崎県看護管理者育成研修

副看護部長　髙尾 珠江

令和4年11月9日から11日の3日間、長崎県内の次世代の看護管理者を対象とした研修を開催しました。日頃、頑張っている看護師さん達が、この研修で少しでも元気になって、現場で活かせるようにと、プログラムを企画しました。看護連携も進み、有意義な情報共有の場となりました。研修開催のためにご尽力いただいた皆様に感謝いたします。そして、研修受講者の皆様の益々のご活躍をお祈りします。

	研修内容
1日目	長崎県の医療情勢について（講義） 看護管理概論（講義） グループマネジメント（講義）
2日目	マネジメントの実際（講義） 人を育てるためのマネジメント（講義） 人材育成について（ワークショップ　グループワーク） 労務管理について（講義）
3日目	看護管理の実際（ワークショップ） 看護管理者として明日から実践すること（グループワーク）

6B　江濱 弥生

他施設の方々とグループワーク等を行いとても刺激となり、前向きに看護管理について考える機会となりました。

スタッフの一人ひとりの個々を知り尊重し、スタッフの強み・弱みを大切にスタッフの声を聴くこと、スタッフと一緒に看護実践を行う時間を増やし、スタッフの成長を承認していきたいと強く感じました。



人材育成について（ワークショップ）

3A　辻村 美希代

久しぶりの研修は緊張からのスタートでしたが、講義を聞くうちに、学んでいることを早く業務に戻り実践したいとワクワクしていました。「人を変える」のではなく「自分が変わる」。まずは自分の弱みを知り、それを認める。そうすれば、相手を承認することへつながる。今回の研修で学び、今私が実践していることです。3日という短い研修でしたが、貴重な時間でした。



看護管理の実際（ワークショップ）

6A　堂口 香織

看護管理について自分の不足している点や課題が明確となり、今後のモチベーションを高めることができました。複数の医療機関から研修生が参加しており、グループワークではお互いの悩みを共有し、課題解決に向けて話し合うことができ貴重な体験となりました。研修で学んだことを活かし看護管理者として役割を果たしていきたいと思います。



最後は明日から実践することを宣言しました

TOPICS

研修医ワークショップ

2年次研修医　中平 皓太

去る11月5日に第16回指導医・研修医合同ワークショップが当院にて開催されました。毎年、研修医プログラムについて指導医と意見交換を行い、次年度以降のプログラムに反映をしています。今年は「働き方改革と研修医プログラム」をテーマに各グループで議論を深めました。医師の働き方改革は2024年より導入され、これまでの医師の勤務体制が見直されつつあります。我々の研修業務も例外ではなく、この黎明期の中で研修の質を高める工夫について知恵を絞り出しあいました。臨床研修病院として歴史のある当院のプログラムはこれまでの修了生の意見のもと、我々に引き継がれています。来年度の研修医がより充実した研修になることを期待しています。





TOPICS

令和4年度緩和ケア研修会開催

緩和ケア科部長　濵脇 正好

令和4年12月3日、緩和ケア研修会が長崎医療センターにて開催されました。今回は3年ぶりに院外からの参加者を迎え、医師8名と看護師5名、計13名の参加となりました。またスタッフは院外講師2名（長崎大学病院石井浩二先生、阿保外科医院阿保貴章先生）を含め運営スタッフ8名、計10名で運営しました。直近のCOVID-19感染状況を考慮しながらの開催でしたが活発で有意義な研修会になったと思います。また昨年度は医師のみの参加となり研修会後に多職種での参加を希望する意見を沢山いただきましたが、今回は看護師の参加があったこと、またスタッフ（MSWなど）からの助言や情報提供もあり、充実したものになったと思います。この緩和ケア研修会は2007年がん対策推進基本計画での目標「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により緩和ケアについての基本的な知識を習得する」に基づき2008年に示された開催指針に沿って行われ、2017年からはe-learning と1日の対面での集合研修とを組み合わせた開催となっています。日本ではがん診療への対策から開始されたものですが、本来の目的はWHOによる緩和ケアの定義にある『緩和ケアの対象は、がんだけでなく生命を脅かすすべての病に関連する問題に直面している患者、家族であること』です。みなさんも日々、患者さんやそのご家族と接する中でいろいろ感じることも多いと思いますが、参加された方がこの研修会で得られた経験をもとに、また本来あるべき診療の在り方を考えていただき、よりよい診療につながればと思います。最後に参加したみなさま、また運営にご協力いただいた全てのみなさまに感謝します。ありがとうございました。



TOPICS

2022年度学術奨励賞入賞者

2022年度の当院での学術奨励賞は以下の3名となりました。おめでとうございます！

筆頭者	論文タイトル
吉永　龍史 （理学療法士）	Factors related to self-care behaviors among hospitalized patients with heart failure in Japan, based on the European Heart Failure Self-Care Behaviour Scale. J Phys Ther Sci. 2022 Jun; 34(6):416-421.
内田　大貴 （脳神経外科医師）	Asymmetric epileptic spasms after corpus callosotomy in children with West syndrome may be a good indicator for unilateral epileptic focus and subsequent resective surgery. Epilepsia Open. 2022 Sep;7(3):474-487.
百枝　裕太郎 （看護師）	救急外来を独歩受診した急性期脳梗塞患者に対するトリアージナース導入の効果. 脳卒中　2022　doi: 10.3995/jstroke.11048

一般社団法人　日本肝臓学会主催　肝がん撲滅運動

市民公開講座のお知らせ

市民の皆様、肝疾患患者さんを対象とした市民公開講座をWebにて開催いたします。視聴は無料です。ぜひご覧ください。

司会　長崎医療センター　難治性疾患研究部長　小森 敦正

第1部・講演

講演1　**肝がんに対する低侵襲治療**
長崎医療センター 肝臓内科医長　本吉 康英

講演2　**肝がんに対する放射線治療**
長崎医療センター 放射線科医師　中村 太祐

第2部・パネル討論会

ゲストパネリスト　長崎医療センター 外科医長　北里 周

視聴方法と注意事項

●視聴はパソコン・スマートフォン・タブレット端末でも可能です。
●視聴は無料ですが、通信料がかかります。通信料は視聴いただく方のご負担となりますので、予めご了承ください。

視聴URL　https://nagasaki-kan.com/shimin2022/



院内さるく

企画課



私たち企画課は、①物品の購入や修理等に関する業務を行っている「契約係」、②病院全体の支出を管理している「経理係」、③患者収入のほか病院全体の入金管理を行っている「財務管理係」の3つの係から編成されております。

当院は、毎月15億円前後の収益及び費用が発生しております。そのような中、本年度の病院目標でもある医業収支100％を達成するため、費用の削減や未収金の確実な回収が行えるよう、13名のスタッフで日々業務を行っております。

職員の皆様方からの対応には、笑顔で答えるよう心掛けておりますので、2階の事務所に来られた際は、お気軽に声をかけて下さい。

リハビリテーション科 だより

Vol.5

急性期における早期離床の取り組み

主任作業療法士　園川 卓



当院のリハビリ科は総勢20名（理学療法士12名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、クラーク1名）で協力しながら日々のリハビリ業務を行っています。

令和3年度のリハビリ科の実績は年間患者総数（リハビリ処方数）3068件、うち診療科別では整形外科489件、脳神経外科339件、脳神経内科319件、その他の診療科1921件となっています。

当院はリハビリ介入対象患者の多くが急性期疾患であることが特徴です。発症直後や手術翌日よりリハビリ介入を開始し、充分なリスク管理のもと積極的な離床を行っています。早い段階での離床は、症状の回復を促進することは勿論ですが、長期安静に伴う廃用（肺炎、床ずれ、関節拘縮等）を予防することにも繋がります。また歩行や日常生活動作、家事動作の再獲得に影響を及ぼすことが分かっています。難渋するケースも多いですが、関係スタッフで患者様の状況を共有し、十分にリスク管理をしながら多職種で協働して行っています。

リハビリを進める上では、関係する多職種で適宜カンファレンスを開催し、日々の患者様の状況や問題を共有し、患者様の目標に向けてよりよい支援ができるように取り組んでいます。

当院の在院日数は整形外科15.6日、脳神経外科15.7日、脳神経内科20.7日と非常に短いため継続的なリハビリが必要な患者様については後方支援病院への情報提供等を行い、切れ目のないリハビリ介入ができるよう連携を図っています。





看護部だより Vol.47

4A病棟の紹介

4A病棟は未熟児病棟と小児病棟があります。成育医療センター、総合周産期母子医療センターとしての役割を担っており、24時間体制で入院を受け入れています。また小児科病棟はてんかん拠点病院であるため全国からてんかん患者が検査や外科的治療を目的に入院しています。

未熟児病棟では、超低出生体重児から様々な合併症を抱えた患者が入院しており、一日でも早くご家族の元で一緒に過ごせるように患者・家族を中心とした看護を行っています。

小児病棟

“ありがとう”であふれる病棟を目指します！



小児病棟のフレッシュナース頑張ってます！

日々学習しながら1つ1つできることを増やしながら看護実践しています。まだ慣れないことが多いですが、できることも増えてきました！





未熟児病棟

母乳育児の推進やカンガルーケアを行い、赤ちゃんと家族の絆を大切にするよう心がけています！



未熟児病棟1年目ナースをご紹介

先輩の丁寧な指導や看護の姿勢から多くの学びを得て看護を実践しています。赤ちゃんの成長を身近で感じ、赤ちゃんが見せてくれるいろんな表情に癒されながら頑張っています！









SENSAIで2022年を振り返る

当院では、年11回広報誌を作成しております。皆様に当院を知っていただきながら、より良い情報提供ができればと考えております。

本年度もお世話になりました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。























理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 救急医療の最後の砦となる
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する